

農産FAX情報 第8号

令和8年9月1日
ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 秋まき小麦

(1) 排水対策

○降雨によるは種作業の遅れや生育不良を軽減するために、サブソイラ等で耕盤層を破碎し、土壌の排水性・通気性を確保しましょう。

(2) は種時期とは種量

○本年産の種子は42.3gと昨年より大きい傾向です。

○安定的な生育量を確保するには、越冬前に葉数5.0葉、茎数550～900本/m²が必要です。

「表1」を参考に、は種時期に合わせては種量を決定しましょう。

○過度なは種量の増加は茎数コントロールが難しくなり、過繁茂や倒伏、細麦の発生など低品質麦の要因となります。

○適正なは種深度は2～3cmです。深まきは出芽率の低下や二段根発生による生育遅延の要因となります。

表1 は種時期別は種量の目安

は種月日	早まき				適期まき					遅まき			
	9/16	9/17	9/18	9/19	9/20	9/21	9/22	9/23	9/24	9/25	9/26	9/27	9/28
は種量 (kg/10a)	5	5	6	6	7	7	8	9	10	10	12	12	14

※は種量は、千粒重43.0g、出芽率90%で算出。(大樹アメダス平年値使用)

(3) 除草剤の使用

○雑草対策には、優占雑草の種類に応じた除草剤を選択しましょう。特にイネ科雑草は、秋の土壌処理が効果的です。

2 てんさい

(1) 褐斑病の防除

○発生は少なめですが9月以降も引き続き防除を実施しましょう。

(2) シロオビノメイガ、シロイチモジヨトウの防除

○本年は8月中旬より成虫が確認されております。
また、北海道防除所より注意報が出されております(QRコード参照)。

今後の被害拡大に注意が必要です。

また、薬剤の使用時期に注意しましょう。



8/5 防除所注意

表2 シロオビノメイガ、ヨトウガの防除例

薬剤名	系統名	希釈倍率(倍)	使用回数	使用時期	RAC番号
カスケード乳剤	ベンゾイル尿素	4,000	4	7日前まで	15
フェニックス顆粒水和剤	ジアミド	5,000~6,000	2	前日まで	28
ディアナSC※	スピノシン	5,000~7,500	2	前日まで	5

※5,000倍で幼虫、成虫に効果的。

3 小豆

(1) ノメイガ類の防除

○8/17に十勝南部管内でマメノメイガ成虫の飛来を確認しました。

○ほ場観察を行い、見つけたらノメイガ類に効果のある農薬で防除を実施しましょう。

表3 ノメイガ類の防除例(小豆)

薬剤名	系統名	希釈倍率(倍)	使用回数	使用時期	RAC番号
ディアナSC	スピノシン	2,500~5,000	2	前日まで	5
プレバソフアブル5	ジアミド	4,000	2	7日前まで	28
モスピランSL液剤	ネオニコチノイド	2,000	3	14日前まで	4A
スミチオン乳剤	有機リン	1,000	4	21日前まで	1B

収穫が近い作物への**ドリフトに注意。**

トラクタや作業機には**早めのライト点灯。**

作業中の収穫機点検は**必ずエンジンを止めて。**